



ジェー ドーム J-DOME ニュースレター

第2号



日本医師会かかりつけ医診療データベース研究事業

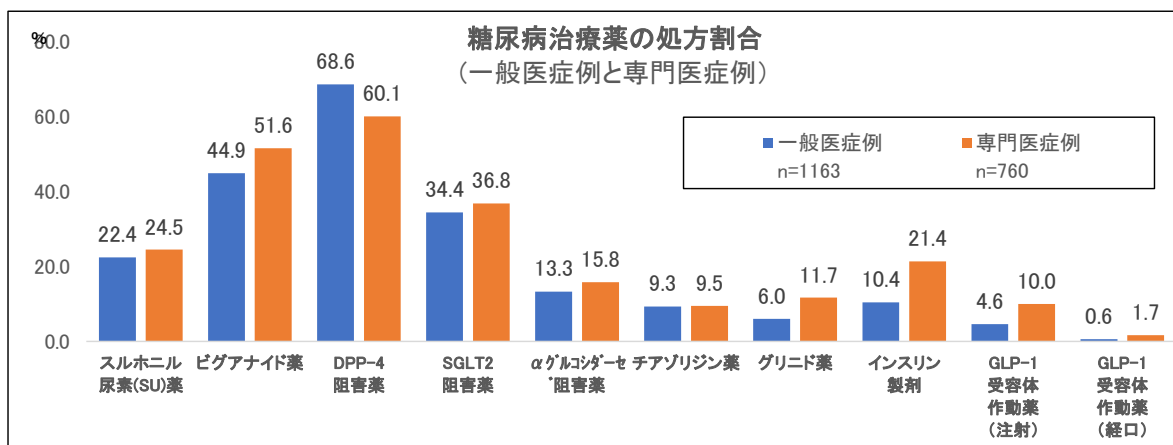
◇ 新型コロナ第6波の到来で、医療機関ではその対応に追われ、また国民の間では自宅時間の長期化が続き、生活習慣病の予防や重症化予防がますます重要になっています。第2号では、糖尿病と高血圧の専門家から新しいトピックをお届けします。

1. 糖尿病チーム 虎の門病院分院 糖尿病内分泌科 医長 辻本哲郎 (J-DOME 研究会議メンバー)

かかりつけ医診療データベース研究事業である J-DOME へご協力くださり誠にありがとうございます。世界中で新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が蔓延し、皆様の日常診療にも多大なる影響がでていることと思います。今までの報告から糖尿病があると新型コロナウイルス感染症の重症化や死亡リスクが高くなることが示唆されており、糖尿病患者さんにはより一層慎重な対応が求められています。一方で、新型コロナウイルス感染症における糖尿病患者さんの血糖コントロールの重要性も分かってきました。糖尿病患者さんの中でも血糖コントロールが良好な人では新型コロナウイルス感染症が重症化しにくく死亡リスクも低いことなども報告されており、血糖コントロールの重要性がさらに高まっています。

糖尿病は日常診療において必ず遭遇する疾患の1つであり、糖尿病に対する更なる診療レベルの向上のためには日本全体での取り組みが不可欠です。J-DOME では糖尿病患者さんの治療の実態を把握し、解析結果をかかりつけ医の先生方の日常診療に役立てていただくことを目指しています。実際に J-DOME に参加した方から糖尿病診療を見直すきっかけになったという声もいただいております。より多くのかかりつけ医が参加して下さるよう邁進致します。また、日本を含め世界中で大規模なデータベースの必要性が高まっています。スウェーデンやデンマークなどの国外のデータベースと比べ日本におけるデータベースは規模が小さく、日本の糖尿病患者さんの実態が十分に把握できていないことなどが問題になっています。J-DOME を通じて糖尿病や高血圧患者さんを対象とした大規模なデータベースを構築することで、心血管イベントだけでなく、日本人でより重要ながん罹患の現状やリスク因子などに関しても十分に把握し、対策を講じることが可能になると考えられます。J-DOME が日本の医療現場を支えてくださっているかかりつけ医の皆様や日本全体の診療レベル向上の一助になれば幸いです。

図1



※配合薬も含む 専門医は日本糖尿病学会認定専門医

2. 高血圧チーム

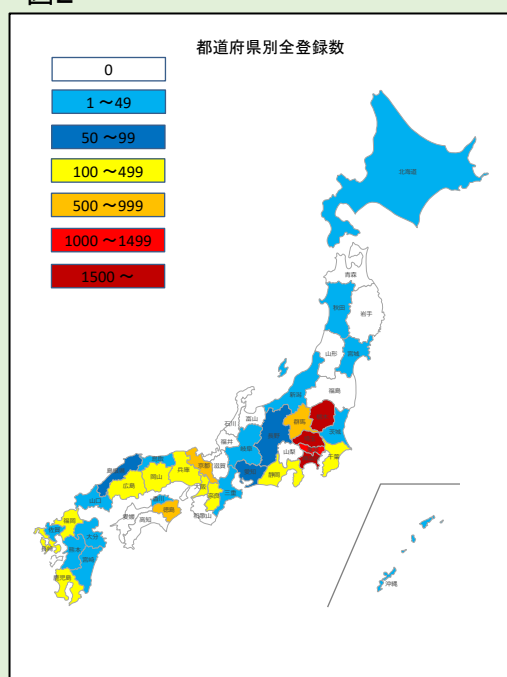
帝京大学医学部 准教授 浅山敬（J-DOME 研究会議メンバー）

J-DOME 研究に 2020 年、日本高血圧学会が参画し、高血圧症例の枠が新設されて測定・登録項目がいくつか追加されました。このうち今回、家庭血圧について簡単にご紹介します。家庭血圧は、自室などのリラックスした環境下で患者自らが測定条件を整えて測ることで、測定値の信頼性・再現性が高い優れた血圧測定法です。たとえ診察室血圧で非高血圧（140/90 mmHg 未満）であっても、そのうち家庭血圧値が高い者（仮面高血圧患者）は脳心血管病リスクが有意に高いことが知られています。また、日々の家庭血圧測定は、血圧の定点観測を実現し、患者の健康意識の改善に繋がります。さらに、服薬習慣ともセットになり、患者の受療・服薬アドヒアランスの維持向上にも役立ちます。

家庭血圧（および脈拍）は受診の直近 2 日分の測定値が入力できます。測定条件は特に規定されていませんが、原則として日本高血圧学会ガイドライン 2019 の推奨に従い、朝・晩とも 1 機会 2 回測定の平均値、そしてその朝晩平均値をその日の測定値としてください。もちろん、朝・1 回のみの測定値の登録でも構いません。大事なことは、家庭血圧を高血圧の管理治療に活かすことです。既に活用しておられる先生方には釈迦に説法で恐縮ですが、厳格かつ十分な降圧治療は、高血圧患者の将来を左右する重要な臨床的介入であり、家庭血圧はその際の必須のツールであるといっても過言ではありません。J-DOME 研究がその一助に役立てば幸いです。そして研究面ではリアルワールドデータが集まることで、家庭血圧と塩分摂取量や腎不全との関連、あるいは糖尿病の各種指標等との思いがけぬ関連が見いだされるのではないかと期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

3. J-DOME アップデート 日本医師会総合政策研究機構 主席研究員 江口成美（J-DOME 研究責任者）

図2



コロナ禍にも関わらず、多くの先生方に症例登録をいただき、J-DOME 登録症例数は本年 1 月現在 16,000 症例となっています。

2021 年度の登録症例（途中経過）を見ると、糖尿病症例の治療薬 SGLT2 阻害薬の処方割合は、一般医症例 34.4%、専門医症例 36.8%で増加傾向が継続しています（図1）。新薬である GLP-1 受容体作動薬（経口）の処方割合はそれぞれ 0.6%、1.7%でした。がん等の併発疾患の割合が増加しており、かかりつけ医による健診・検診の実施や勧奨がいっそう重要になっています。一方、高血圧症例のうち家庭血圧測定が行われていたのは、一般医症例 35.5%、専門医症例 67.6%で、さらなる啓発活動が必要とされていました。

今後の症例分析に向けて、地域偏在を減らすため、各都道府県への普及活動をさらに進めて参りたいと思います（図2）。

ご関心のある先生方へお声がけを頂けると幸いです。

<事務局より>

本年 4 月に Web 入力ソフトのセキュリティ強化を実施いたします。後日、新たなクライアント証明書をメールにてお送りしますので、大変お手数をおかけいたしますが、再インストールをよろしくお願い申し上げます。引き続き、年 1 回の症例登録（更新）を何卒よろしくお願い申し上げます。

【連絡先 電話：03-3942-7215 メール：jdome@jdome.jp】《ホームページ <https://www.jdome.jp/>》

